

浮羽郡内唱歌

大和田 建樹 作詞
田村 虎蔵 作曲

ゴチック体部分が江南小学校の校歌として歌われています。
明治四十年代の作 出典 吉井町誌第二巻

- 一 南に聳ゆる水縄山 北に走れる筑後川
川と山との風光を 併せて秀つる浮羽の地
- 二 春は山辺の桜狩 夏は川瀬のう飼舟
月に紅葉に白雪に 尽きせぬ四季の眺めあり
- 三 町は吉井に田主丸 村は十四の数ありて
教育進み民はげみ 実業日日に栄えゆく
- 四 郡の物産数多き 中にも菜種藍煙草
あゆに苗木に竹の皮 いずれ富源の種ならん
- 五 不朽の歴史を千歳に 残す若宮八幡は
景行帝の行在所 置かせ給いし跡とかや
- 六 鎮西八郎為朝が 筑紫に武勇振りし日
建てし社の末永く 国の光や守るらん
- 七 この八幡の東西に たてる日の岡月の岡
掘り出す土中の甲冑は 景行帝の御代の武器
- 八 あたりに近き浮羽島 いこわせ給いし大君の
記念は長く郡名に とどめしことも千余年
- 九 かくまで故ある里ながら 川水低く岸高く
田はいと貧しき地なりしを 豊かになせしは誰が徳ぞ
- 十 寛文初年の頃とかや いでこの民を救わんと
慨然死をもて誓いたる 郡中五人の丈夫あり
(この地に) (庄屋)
- 十一 夏梅清宗菅高田 及び今竹五ヶ村の
庄屋はここに差し出す 水道工事の請願書
- 十二 水もし引くに来たらずば 皆一同にはりつけの
刑罰此の身に受くべしと 壮なるかなこの事や
- 十三 至誠は人を動かして 許しの下る村口に
早立てらるる仕置台 見るにはげまぬ人ぞなき
- 十四 矢よりも早き筑後川 逆巻く波と戦いて
岩切り穿ち水をせく その辛その苦そも如何に
- 十五 百難万艱排し得て 開きし長野と大石の
堰に命を救わるる 田の面は二百余町
- 十六 千古の偉業功なりて 下りし賞与の数々も
五人は辞して皆受けず 誰かは高義に泣かざらん
- 十七 社は高し千年村 千年に消えぬ魂は
長くこの地に祀られて 守るか民の幸いを
(御霊は長く)
- 十八 其後八年の月日経て 再び起こる大工事
袋野村を切り抜きの 企雄々し事難し
- 十九 されど利民の一心を 立てて動かぬ田代氏
手づからさざえに火をともし工夫はげます折もあり
- 二十 沈むる石は幾度も おし流されてとまらねば
せかんとすれどせきかぬる 流れは早し底深し
- 二十一 榎を埋めよと指揮すれど 恐れて人の応ぜねば
立てたる竹をつたいつつ 自らおろす波の底
- 二十二 精神一度至りなば 山をもいかで抜かざらん
開さく功成る千間余 広さは牛馬も通う可し
- 二十三 恵は及ぶ三つの村 子孫に伝えて忘れじと
地蔵の石にほり残す 形見の像はなおあれに
(村)
- 二十四 貴き歴史は我が郡の 無窮のほまれ散らぬ花
故人に恥じぬ行いを なさばや我等も世の為に